

「萩市地域公共交通網形成計画（案）」に対するご意見の概要と市の考え方

ご意見の概要	市の考え方
<p>見島離島航路の1便目の定期船乗り場着が8時40分で、萩循環まゐるバスの西回り定期船乗り場発が8時41分となっているため、バスへの乗車が出来ない状況である。このため、バスの運行時刻の改善を要望する。</p>	<p>推進施策に記載のとおり、萩循環まゐるバスは、市街地の移動手段として定着している状況を踏まえながら、市街地住民、周辺地域、離島住民、市外来訪者にとって、より利便性の高い運行形態へ再編するよう取り組んでいきます。</p>
<p>大井地区は、萩市街地へ買物や通院に通われる高齢者が多い。また、今後、運転免許証の返納を考えられている高齢者もいることから、大井地区と萩市街地間を結ぶ路線バスと市街地を循環する萩循環まゐるバスを1日500円で乗車できる共通乗車券制度を実施できないか。</p>	<p>推進施策に記載のとおり、高齢者が利用しやすい公共交通の環境整備に取り組んでいきます。 計画策定にあたり、地域住民に行ったアンケート調査においても「利用料金を安くする」という意見が最も多く、高齢者の運転免許証自主返納者への支援も含めて、福祉施策と連携し、日常的に利用しやすい運賃、萩市街地と周辺部の運賃負担の在り方など、高齢者が安心して移動できる支援の仕組みを進めていきます。</p>
<p>大井地区と萩市街地間を運行する路線バスに萩市民病院行きのルートを追加していただきたい。</p>	<p>路線バスのルートの見直しについては、バス運行事業者と連携し、利用者のニーズに応じた運行ルートや運行便数等の見直しを進めていきます。</p>
<p>大井地区では、阿武町の道の駅に買物へ出掛けられる高齢者の方もいることから、阿武町との提携により、阿武町が運行しているバスに大井馬場、浦間へのルートを追加するとともに、料金を100円とすることを検討していただきたい。阿武町への見返りとして、阿武町から萩市街地の移動に対して、600円券を提供する。</p>	<p>隣接自治体との提携についてご提言いただいたところですが、まずは市内を運行している路線バスをバス運行事業者と連携し、利用者のニーズに応じた運行ルートや運行便数等の見直しを進めるよう考えています。 また、利用料金については、高齢者が利用しやすい公共交通の環境整備として、日常的に利用しやすい運賃、萩市街地と周辺部の運賃負担の在り方など、高齢者が安心して移動できる支援の仕組みを進めていきます。</p>
<p>計画(案)の旭地域の現状と方針の中で、旭地域明木地区の交通結節拠点を旭総合事務所として記載されているが、旭地域で作成した地域夢プランでは、地域住民の生活や交流の拠点として農産物加工販売所「つつじ」を位置付けている。このため、集客力を高め、賑わいを創出する拠点として「つつじ」も交通結節拠点到に位置付けられないか。</p>	<p>農産物加工販売所「つつじ」は、駐車場内に路線バスの旋回スペースがないため、路線バスの乗り入れは困難ですが、ご提言のとおり、地域の活性化や交流の拠点として、重要な施設であり、当施設から徒歩圏内に「下菅蓋バス停」もあることから、計画に交通結節拠点として「つつじ」を位置付けるよう追記いたします。</p>

ご意見の概要	市の考え方
<p>須佐地域の弥富地区には、路線バスや地域巡回ぐるっとバスが運行しているが、運行本数が少ないため利用し難い。また、自宅から幹線道路までの移動が困難な高齢者もあり、今後、増々、高齢者の移手段の確保が必要である。</p>	<p>公共交通の利用者の減少や運転士不足など、公共交通事業者の経営努力だけでは地域の公共交通を確保・維持することが困難です。 また、行政の公共交通の維持に係る費用負担の増大という課題などを踏まえ、地域コミュニティ交通の取り組みに対する支援を進め、住民も含めた三者が一体となった新たな公共交通網を形成し、持続的な公共交通の維持・確保を進めていきます。</p>
<p>須佐地域と田万川地域の両地域を跨って運行している路線バスがあるが、バス停までの移動が遠い方にも配慮した運行経由を考えられないか。 また、狭小な道路の集落にも運行できるよう、車両の小型化ができないか。</p>	<p>推進施策に記載のとおり、路線バスは、バス運行事業者と連携し、利用者のニーズに応じた運行ルートや運行便数等の見直しを進めていきます。 須佐地域と田万川地域のような生活圏が近い地域間については、より利便性が高く効率的な交通体系を構築します。 また、車両については、高齢者が移動しやすい環境を構築するため、低床・環境対応車両の導入を推進するよう取り組むとともに、地域の地理的条件に対応する車両導入を推進していきます。</p>
<p>移動困難者に対して、地区の助け合いで買物や通院の移動支援を行っている。支援する側も高齢となり、運転ができる者も少なくなっているが、今後も継続していくことが必要と考えている。</p>	<p>萩市では、地域全体で高齢者の生活を支える体制づくりを進めており、各地区で住民が主体となった支え合いによる高齢者生活支援サービスが実施されています。 地域内での支え合いによるコミュニティ交通の導入や実施団体の体制整備と担い手の確保を支援し、市と市民が協働したきめ細かな交通網を構築していきます。</p>
<p>現在、三見地区の75歳以上の人口は349人で、その内、運転免許証を持たれていない移動困難者が約8割いると推測される。 三見地区から市街地へ出るには、路線バスまたはJRを利用することとなるが、不便と感じる。 また、三見地区には地域巡回ぐるっとバスがあるが、地区内の移動しか利用できないため不自由と感じる。 このため、市街地を運行している萩循環まあるバスを道の駅「さんさん三見」まで延伸していただきたい。</p>	<p>路線バスは、運行事業者と連携し、利用者のニーズに応じた運行ルートや運行便数等の見直しを進めます。 また、路線バスやJRなどの広域的な幹線と、地域内を運行するぐるっとバスなどの支線の役割分担を明確にするとともに、幹線と支線が結節する交通結節機能の強化を図る事で、効果的な公共交通網を再構築するよう取り組みます。 まあるバスについては、バスセンターや東萩駅などの交通結節点で、広域幹線と接続することで、周辺地域や離島住民にとっての移手段としても、より利便性の高い運行形態を構築するよう取り組みます。</p>

ご意見の概要	市の考え方
<p>計画の中では、「住民主体の公共交通」が記載されている。</p> <p>この構築にあたっては、運営体制の仕組みをつくる支援が必要となることから、市、または社会福祉協議会等関係機関の協力をお願いしたい。</p>	<p>高齢化に伴い、路線バスなど既存の交通手段では、きめ細かな高齢者の移動ニーズへの対応が困難となってきており、地域意見交換会では、住民による支え合いの仕組みづくりや自家用有償旅客運送への支援など、地域コミュニティ交通の推進を求める意見がありました。</p> <p>このため、地域内での支え合いによるコミュニティ交通の導入や実施団体の体制整備と担い手の確保を支援することで、萩市と市民が協働したきめ細かな交通網を構築するよう取り組んでいきます。</p>